

テクノス通信 VOL. 23 Apr.2011



「離床センサー普及の背景と使用場所」

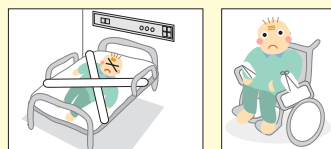
テクノスジャパンが離床センサーの製造・販売に取り組みはじめたのは、今から14年前、1997年のことでした。初めて販売した離床センサーは、「徘徊ノン」という商品です。当初の販売台数は非常に少ないものですが、今や離床センサーは様々な医療・介護の現場で使用され、「あれば便利」から「なくてはならない」ものになりました。今回は、離床センサーが普及した背景とどういった場所でどのような使用をされているかをご紹介します。



●身体拘束を巡る経緯

- 1998年 10月：抑制廃止福岡宣言が出される
- 1999年 3月：厚生省令において身体拘束禁止が規定される
- 2000年 4月：身体拘束禁止規定を盛り込んだ介護保険法が施行される
- 2001年 3月：厚生労働省より「身体拘束ゼロの手引き」が配布される
- 2006年 4月：介護保険施設における身体拘束廃止未実施減算が規定される

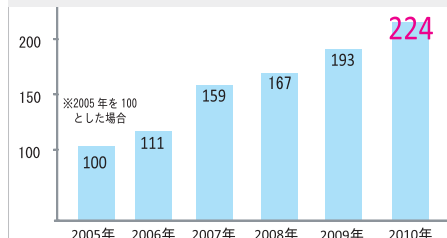
身体拘束例



●身体抑制廃止運動から広まった離床センサー

身体拘束は、かつて医療・介護の現場で安全を確保する目的で実施されていましたが、弊害が多い事から社会問題化し、廃止運動が高まり、現在では禁止されています。身体拘束がもたらす弊害には、身体機能の低下など身体的弊害、人間としての尊厳を侵す精神的弊害、介護保険施設等に対する社会的不信、偏見を招く社会的弊害がありました。高齢者ケアの現場では、徘徊行為や転倒・転落の防止を理由に拘束が行われてきましたが、身体拘束の禁止により身体拘束に代わる安全を確保する対策が必要となりました。そういった状況の中で、離床センサーは拘束によらない安全対策として、医療・介護の現場に受け入れられ普及していったのです。また、離床センサーは、対象者の行動を抑制しない事から、高齢者ケアにおける「QOLの向上」という目標とも合致し、現在では多くの医療・介護の現場で採用されています。

当社離床センサー年度別出荷台数伸長



離床センサーは、昨今出荷台数が増え、急速に普及してきました。弊社の出荷台数は過去5年間で約2倍に伸び、累計出荷台数は10万台を突破しました。離床センサーは「あれば便利」から「なくてはならない」へ！

●離床センサーの使用場所



病院



コールマット



座コール

病院での設置例

一般病院では、病気・ケガ・年齢などで体力が低下し、転倒・転落のリスクが高い方や認知症・薬剤などによるせん妄など認識力が低下した方に対し、床センサーが広く使用されています。

治療に支障があるなどやむを得ない場合は、医師の指示により身体拘束が行われるケースもありますが、患者の人権を尊重し患者や家族とのトラブルを避けたい考えから、拘束をせず、離床センサーが使用される機会が増えてきました。

精神病院では、外部との行き来を遮断できる事、精神疾患はあるものの身体能力は低下していない方も多く、機器類の設置に課題がある事（機器の破損や機器を原因とした事故が心配など）、から離床センサーの普及は進んでいませんでした。しかし、病院によっては認知症専門病棟などで、身体拘束の代替策として離床センサーの導入を進めている所も増えつつあります。



在宅

在宅向けの離床センサーとしては、介護保険の福祉用具レンタル品目として「認知症老人徘徊感知機器」があり、利用者は少ない自己負担でレンタル事業者から機器を借りる事ができます。2009年4月には、福祉用具の介護保険適用範囲の見直しが行われ、徘徊行動を知らせるセンサーだけではなく、ベッドや布団からの離床行動を知らせるセンサーも新たに適用される事になりました。それ以降、在宅での離床センサーの使用が広がっています。また、特別養護老人ホームや老人保健施設など高齢者施設の新規開設が減った事で、生活の大部分に介助が必要な方が在宅で療養するケースが増えている事からも、今後在宅での離床センサーの必要性が高まり、普及が進むと考えられます。



高齢者施設



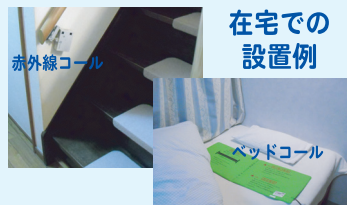
高齢者施設での設置例

以下の高齢者施設では、介護保険法により、身体拘束が原則禁止されています。

- ・特別養護老人ホーム
- ・老人保健施設
- ・介護療養型医療施設
- ・グループホーム
- ・ショートステイ

これらの施設では、身体拘束の禁止により離床センサーの必要性が高まり、導入が進められてきました。

特に、特別養護老人ホーム・老人保健施設・療養型医療施設では、入所期間が長期になる事も多く、その間に身体能力や認識力が低下し、離床センサーが必要となるケースが多くあります。また、ショートステイでは、入所期間は短いもののどの様な方が入所するか分からない事から、その方の身体能力や行動パターンを知る目的で、離床センサーを使用するケースがあります。



在宅での設置例



4月号でご紹介した内容をさらに詳しく、次号よりご案内いたします。お楽しみに！

- 5月号：病院での離床センサー使用
- 6月号：高齢者施設での離床センサー使用
- 7月号：精神病院・病棟での離床センサー使用
- 8月号：一般家庭での離床センサー使用